

軌間可変技術評価委員会の開催結果等に係る
地元説明会について

平成 28 年 11 月 21 日（月曜日）、長崎県庁において 11 月 18 日に開催された「軌間可変技術評価委員会」の開催結果等に係る地元関係者への説明会が行われました。

国土交通省からフリーゲージトレインの不具合等のこれまでの検証結果として、「車軸の摩耗対策」では、一定の効果は認められるが 60 万キロメートル相当の耐久性を有するとの判断は難しいこと、「高速走行安定性」については、安全に耐久走行試験を実施するためには、より詳細な検討が必要であること、また「経済性の検討」では、収支採算性の観点からフリーゲージトレインの実用化に向けたコスト削減が必要との報告がなされました。

その結果、現時点においては、耐久走行試験に移行する条件は満たされていないとの評価が示され、今後、「検証走行試験等の実施」と「コスト削減策の検討」に取り組み、平成 29 年初夏を目途にとりまとめた上で、改めて、軌間可変技術評価委員会を開催し、耐久走行試験の再開を判断することとされました。

中村知事は説明会の中で、「新幹線の開業に向け新しいまちづくりに取り組んでおり、開業効果の早期発現に向け全力を注いでいるところである。これ以上、大きな遅れが生じると様々な影響も懸念されることから、是非、国におかれても、しっかりと今後のスケジュールに沿ってご努力をいただき、所期の姿の実現に全力を注いでいただくよう心から願います。」と発言しました。

県としては、今後とも、重大な関心をもって、フリーゲージトレインの開発状況を注視していきます。